



このチェンバロは、ピアニストの久元祐子さんが最近入手された、フランスの製作家マルク・デュコルネによる 1624 年製のヨハネス・リュッカース(コルマール、ウンターリンデン博物館蔵)のレプリカ。楽器そのものの音の美しさもさることながら、その贅をこらした装飾は絶品。手の込んだルイ14世様式のスタンドは、わが国では唯一のもの。イタリアの美術工芸家たちが腕によりをかけた作品です。この装飾は、ニューヨークのメトロポリタン美術館に所蔵されている、ヨハネス・ケーシェ作(1655年頃)の二段鍵盤のチェンバロのコピーです。ヨハネス・ケーシェはヨハネス・ルッカースの甥で、工房の継承者でもありました。彼は、叔父のヨハネス・ルッカースと同じデザインで、数多くのチェンバロを製作したことで知られています。このコンサートでは、チェンバロの演奏の後には、久元祐子さんによる歴史的ピアノのコレクションの紹介もあります(Replica of the Stein Piano [Zuckermann], Replica of the Walter Piano [Petroselli], Pleyel - Paris - 1843, Erard - Paris - 1868)。

渡邊 順生

チェンバロ、クラヴィコード、フォルテピアノ奏者、指揮者として活躍。論文執筆や楽譜校訂も手がける。2010年度サントリー音楽賞受賞。1950年鎌倉の生まれ。一橋大学社会学部卒業。アムステルダム音楽院にてソリスト・ディプロマ及びプリ・デクセランスを取得。小林道夫、グスタフ・レオンハルトらにチェンバロを師事。ソニー、創美企画、コジマ録音、セシル・レコードより多数のCDをリリース。『フレスコバルディ／フローベルガー：チェンバロ作品集』(コジマ録音、2016)でレコード・アカデミー賞受賞。著書『バッハ・古楽・チェロ～アンナー・ビルスマは語る～』(アルテスパブリッシング、2016)も新聞・雑誌等で絶賛されている。上野学園大学客員教授、東京音楽大学、桐朋学園大学講師。



久元 祐子



東京芸術大学音楽学部(ピアノ専攻)を経て同大学大学院修士課程を修了。ウィーン放送交響楽団、ラトビア国立交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィルなど、内外のオーケストラと多数共演。ベーゼンドルファー(1829)、プレイエル(1843)、エラール(1868)、ブロードウッド(1820)などの歴史的ピアノを所蔵し、これらを用いての演奏会や録音にも数多く取り組んでいる。これまでに、「優雅なるモーツァルト」、「ベートーヴェン・ソナタ集」などをはじめ、CD 12 作をリリース。また、著書「モーツァルトのピアノ音楽研究」(音楽之友社)、「モーツァルトはどう弾いたか」(丸善)、「原典版で弾きたい！モーツァルトのピアノ・ソナタ」(アルテスパブリッシング)なども好評を得ている。国立音楽大学教授。